

大念佛

No.77

発行/融通念佛宗
総本山 大念佛寺
大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026

題字：融通念佛宗 管長 倍巖良舜



迎春

融通念佛宗管長
倍巖良舜

平成二十九年の新春お慶び申し上げます。

暦をみると丁酉の年となっています。「丁」の字は「壯丁」などといわれるように力強いという意味があります。「酉」という字は酒つぼの形からきたもので酒の「さんずいへん」とれば酉になり「熟する」とか「できあがる」とかの意味になります。漢字というのはよくできていますとあらためて思います。今年が力強く進んでいく年でありたいものです。

本山の境内北端に大阪市指定保存樹が三本あります。一番大きいクスノキは高さが約十九メートル、幹の回りが約七メートル、地上に見えて八方に広がっている根元は十メートル以上あり、天にかけ登ろうとする臥竜の様相です。

この巨大な樹はおそらく七百年以上の昔から大念佛寺の一角より歴史を見つめてきたものと思われれます。NHKの大河ドラマで「真田丸」というのがあり、徳川家康や秀忠が登場します。八尾や平野に陣取り、大坂冬の陣夏の陣で家康や秀忠もこの大樹をながめながら作戦をねっていたにちがいないと思います。大樹はあの巨体を支え一枚一枚の葉っぱに栄養を与えるすごい力もついています。神性ともいえる力です。故にしめ縄をはって神としてあがめ尊んでいます。さて、融通念佛宗祖聖應大

師良忍上人は九百年の昔に、初めて庶民に仏心をつたえ、安らぎを与えようとして融通念仏の勧進を始められました。それまでの日本の仏教は南都(奈良)の法相宗、華嚴宗、律宗、そして平安時代に入ると最澄(伝教大師)の天台宗、空海(弘法大師)の真言宗とありますが、何れも庶民を無視していたわけではないものの、貴族の方に重きをおいていたのです。

良忍上人は比叡山延暦寺で修行勉強をされました。若くして講主まで勉めておられます。当然、伝教大師の「一隅を照らす」という教えを受けておられます。一人ひとりが一隅を照らす。皆で照らせば更に大きい光になる。そしてひらめきを得て良忍上人は一人一切人 一切人一人 一行一切行 一切行一行 十界一念 融通念仏

億百万遍 功德円満 という簡単であるが極めて奥深い速疾往生の勝因である融通念仏を感じ得られたのです。(阿弥陀如来より授かった御文です。)

従来の観想念仏より、口で唱える口称念仏「融通念仏南無阿弥陀仏」が最もよろしいといわれたのです。この良忍上人の融通念仏が嚆矢となつて後の法然上人の浄土宗、親鸞聖人の浄土真宗、一遍上人の時宗と「南無阿弥陀仏」と唱える宗団が広まり日本伝統仏教の大きな流れとなっているのです。本年も皆様の御健勝と御多幸を祈念致します。

ご挨拶

融通念佛宗 宗務総長 田中 瑞修



平成二十九年の新春を言祝ぎお慶びを申し上げます。檀信徒の皆様におかれましては、心身共に清らかに新年をお迎えいただいたことと存じます。

この一年健康で心豊かに、喜びと感謝の日々を重ねられますことをお祈り申し上げます。

不肖私、先の吉村総長の後を受け、十一月十日総長の職を拝命し、本年より宗政を預かることとなりました。何分にも浅学非才、その分に非ずの小閑ではあります。身命を賭して宗門の興隆、宗行政の円滑、寺檀和合に微力ながら邁進させていただく覚悟であります。先の内局は開宗九百年、大通上人三百回御遠忌を成満なしたさいました。しかしながらこれで一息を吐くことはできません。宗門を取り巻く情勢は誠に早く厳しいものがあります。若年層のみならず、宗教離れ、信仰心の欠如による人心の荒廃は、

円満なる人間の心を蝕み、さまざまな事件事故を生む要因となり、社会に問題を投げかけております。現下宗教者は袷を正し、宗教家本来の役割を全うしなければなりませんと受け止めております。まずは布教伝導を第一義とし、仏縁の薄い人々に我が宗門の宗祖良忍上人の尊厳教義にふれていただく。宗旨、宗派にとらわれず、釈尊のお説き下された仏法のご縁に一人でも多くの方を導く努力と行動に力を注がなければならぬと実感しております。

「仏法の池のみぎわに立ちいても、汲まぬ器に水は溜まらじ」の言葉の如く、寺院と教会は各所にありながら、その前を通りながらも仏法の教えにふれて覚める人はどれ程ありましようか。奈良少年刑務所はその永い歴史をこの三月で閉じることとなりました。教師として二十五年通い続け、数々の思い出の中、寂しい感じとしおであります。教誨活動の中で仏教クラブがあります。毎週火曜日、一時間半をいただき読経、法話、写経、坐禅等入所者と共に過ごします。社会の中で数々の問題、間違い

を犯した少年たちが一心に掌を合わせ、念仏を唱え、写経に取り組む姿を目にする時、人はみな仏、素晴らしい仏性の持ち主である事を教えられ、この仏性を引き出し覚めさせる事の働きをしてこなかった一宗教者としてその責任を痛感しております。罪を犯す前に仏縁に遇っておれば今回の姿もなく、それぞれの人生そのものが変わっていただろう。この少年達だけではない、全ての人々に自己の持っている

仏性に覚めていただく働きをしなければならぬ。布教伝導による人々の心の教化、仏教弘通の為に一日一日を重ねてまいりたい思いであります。最後にこの一年、檀信徒各位に仏天のご加護あらん事を念じて挨拶とさせていただきます。合掌 九拝



財務部長 篠塚 章 臣



庶務部長 佐々木 智 祥



教学部長 濱 田 全 眞

おはなし

布教師 吉村 明山

新しい年を迎えるたびに私たちは思うことでしょうか。一年の何と早いことか。

時の流れ、物事の変化、移り変わりのことを仏教で「無常」と申します。

常というのは物事が一定の状態で止まっていることで、その常の無いのが無常ですから、あらゆるものは変化し、変わっていくことを無常といえます。

日々を忙しく過ごそうと、何もせずに過ごそうと、時は同じだけ過ぎていきますが、どちらが偉いというわけはありません。ただ、同じだけ時間が過ぎていくのです。

今日という日は平凡な一日かも知れませんが、しかしその平凡な毎日が積み重なって人生となるのです。ですから、今日は人生にとっては欠かすことの出来ないかけがえのない一日です。

今日は、昨日の結果であり明日の要因となる、貴重な人生のページです。

つまらない一日にするか、かけがえのない一日にするかは自分次第、といっても何をやるかはあります。どう受け止めるか、その心の持ちようが変わ

ります。限りある人生をどのように受け止めるか。「どうせ短い人生だから」というのは誤った受け止め方。「せっかくだから人生だから」と受け止めていたただくのが無常の教えであります。

「朝露たちまち消え、電光即ち過ぐ。幸いなるかな、一日の光景を得て一日の仏名を称し、往生を願得すべし」

これは融通念佛宗の教えを説いている『融通円門章』という書物に出てくる一節です。

「私たちの人生は朝露や稲妻の光のように短い。その短い人生だからこそ、今日もこうして命ある事を喜び、お念仏をお唱えし、本当の喜びに目覚めましょう」と教えていただいております。

今日という日を迎えられたことを喜び、手を合わせるこの出来るわが身に、お念仏を唱えられる我が身に感謝出来る日常こそ、かけがえのない一日となるのです。



融通大念仏紀行

越の西福寺

教学部長 濱田全真



西福寺

によれば、敬法は「融通念仏は現生護念の利益洪大なる故に終生之を修行し」亡くなる時には「良忍上人相伝の放光阿弥陀経を指頭に挟み称号数百返眠るが如くにして寂す、世寿八十一」とある。このようなことから、現在清浄華院には良忍上人着用の袈裟（如法衣）が所蔵されている。

良忍上人の名前の由来は、早くから良忍上人に傾倒し、大原の御廟にも度々参詣を重ねていたことから、良忍上人の如しとの意をこめて自らを名乗ったという。西福寺の山号も大原山という。師の敬法の命を受け、融通念仏の布教（勸進）で北国を巡回し、一三六八年に敦賀に西福寺を建立し、後光厳天皇から勅額を賜り、地頭山内氏から寺



書院庭園

（前略）同十二月十五日無行末老僧之阿弥陀之三尊持参申、依建立精舎本尊御所望之由風聞之間、即可奉寄附申、上人忝不思儀（議）思召、汝是何人問、老僧云、我是洛陽東山之辺住者、重而可参迎歸給、今之本尊是也、翌年商人来而拜本尊、此者洛陽東山御座間、如来、一年平家嫡男小松内大臣重盛公、出東山、四十八日之念仏興行之時本尊阿弥陀之御作無疑、見知処歴然、顯渴仰之気色、矢失給、此者不可有唯人、観音大士之化身也申伝也。

地を寄進され、後小松天皇の願所となった。その後も融通念仏の勸進でもって近江・越前・若狭に百余寺を建立したと伝えられている。

又、西福寺と融通念仏の関係を示す逸話が伝えられている。それは西福寺の本尊の由来である。「大原山縁起」によれば



良如上人像

平成二十九年度の紫金職は第一教区観光寺前任職の森田道知師に決まりました。任期は毎年二月一日から翌年の一月末日までです。

紫金職は融通念佛宗僧侶にとつて名誉職です。就任しますと、万部法要及び宗門にとつての大事な行事の法要において、管長以下の前座で導師を勤めます。選ばれるにあたっては、住職の在任期間が二十年以上などの条件を満たすことと、各法要を

平成二十九年度
紫金職

森田道知師は昭和九年生まれで、

昭和二十四年入衆、同四十八年から平成十七年まで今里の観光寺の住職を務め、その間宗議会議長、宗参事など重職を歴任されました。また、自坊においては鐘樓を建立し、融通正伝法を

福井県敦賀市の原に立地する越前浄土宗の西福寺の開山良如上人は康永三年（興国五年、一三四四）に越前（福井県）府中に生まれ、越前の平泉寺で出家、

その後比叡山で学んだが浄土教に傾注し、京都の浄華院（現、清浄華院 京都市上京区）八世の敬法に師事し、師から融通念仏を伝授された。『清浄華院誌要』

子供念仏寺子屋修行体験

第十回目を開催して

十四教区 長円寺内 中山 順心



和太鼓の体験

平成二十八年七月二十二日・二十三日、一泊二日の子供念仏修行体験が行われました。この活動を支えて下さった皆様のお力によって今回で十回目を迎えました。場所は河内長野市にある自然豊かな岩湧寺で参加者は小学一年生から中学生と幅広い年齢層でした。

鼓に触れる子供たちが多く、一生懸命練習している姿はとても素敵なおもいででした。体を動かした後は食事作法で米や野菜を頂くことの大切さ、感謝をすする大切さについて学び、精進カレーを頂きました。

夜の念仏会をした後、真つ暗闇になった本堂で、一人一人手に持っているローソクに小さな灯火がポツリポツリと点きました。暗かった本堂が次第に明るくなり、優しく皆を照らしていました。この優しい灯火から命の大切さや、命の繋がりについて学びました。

鼓に触れる子供たちが多く、一生懸命練習している姿はとても素敵なおもいででした。体を動かした後は食事作法で米や野菜を頂くことの大切さ、感謝をすする大切さについて学び、精進カレーを頂きました。

夜の念仏会をした後、真つ暗闇になった本堂で、一人一人手に持っているローソクに小さな灯火がポツリポツリと点きました。暗かった本堂が次第に明るくなり、優しく皆を照らしていました。この優しい灯火から命の大切さや、命の繋がりについて学びました。



灯火のつどい

感じました。二日間という時間はあつという間に感じますが、子どもたちにとつても私たちにとつてもとても貴重な時間でした。この体験がこれからの人生の糧になることを願っています。



小 径

先日、一人の僧侶と出会いました。彼は自分を何不自由なく育ててくれた、旅館を営む両親が亡くなり、莫大な財産を引き継ぐ事となりました。しかし、理由あって旅館を廃業し、その跡に劇場ビルを建てて経営者となりました。彼が三五歳の時、実の親であるという夫婦が名乗り出て来て育ててくれた夫婦は他人であることを知り、実の先祖と育ての両親の先祖の供養の為、縁あって僧侶になりました。

江戸時代、この地には墓地や日本でも最大規模の処刑場があり、多くの人々が処刑されました。近年の研究で、処刑されたほとんどが隠れキリシタンで数百万人にも登ることがわかりました。大坂夏の陣で戦死した人々の遺体もこの処刑場に運び込まれ、徳川幕府の命で隠れキリシタンに葬られました。後、徳川幕府が大坂の再開発にも多くの隠れキリシタンが動員され、犠牲となって亡くなったこともわかってきました。当時は、このような方々の鎮魂供養する寺が界隈に六ヶ寺あったそうですが、近年皆無となり、この僧侶が鎮魂供養のため、毎日二座の護摩の修法をすることを決心したそうです。最初はカフェの玄関の軒先を借りて護摩を焚いていましたが、やがてカフェのオーナーが、店全体を寺地に提供してくれるようになりました。僧侶はある時、自分の実の先祖が隠れキリシタンであったことを知り、寺地を提供してくれた人の先祖も隠れキリシタンであったことを聞き、「自分はここに来て供養することに納得していった」と悟ったそうです。私はこの話を聞いて、この僧侶だけでなく誰も皆、何らかの理由があつて、今の立場にあるのだと思ひました。先祖が脈々と積み重ねてきた縁で、誰もあるべき場所、あるべきようにあるのだと感じました。

意楽

大念仏寺 年中行事のご案内(一月～七月)

- 一月一日(日祝) 午前五時 修正会 国家安泰・五穀豊穡・万民豊樂を祈願して法要が修されます。
- 一月十六日(月) 午前十時 融通念仏会 一緒に念仏を称えましょう。
- 一月十六日(月) 午後一時 百万遍会(大数珠くり) 外陣いっばいに張りめぐらされた数珠を、お念仏の声もろともに繰ります。管長親下から身体堅固のお加持が受けられます。
- 二月三日(金) 午前九時三十分 寒行 本山僧侶が平野の町を鉦を打ち鳴らしながら托鉢します。
- 二月十六日(日) 午後二時 大般若転読 午後二時 毘沙門天護摩供 午前十時
- 三月三日(金) 午前七時 河内御回在御出光
- 三月五日(日) 午後一時 再興大通上人 御忌法要
- 三月三十日(金) 午後一時三十分 写経奉納供養・筆供養
- 五月一日(月)～五日(金祝) 万部法要
- 五月十六日(火) 午前十一時 融通念仏会
- 五月十六日(火) 午後一時 百万遍会(大数珠くり)
- 五月二十二日(月) 東照大権現忌
- 五月二十九日(月) 午後三時頃 河内御回在御帰院
- 六月十七日(土)・十八日(日) 午後二時 保管霊骨追善法要
- 七月七日(金) 午後一時 中祖法明上人 御忌法要
- 七月二十日(木) 鳥羽上皇忌
- 毎月第二水曜日 午後二時～四時三十分 大念仏寺仏教講座
- 毎月二十六日 午後一時三十分 定例布教
- ★写経のご案内 毎月二十六日、午前九時三十分より午後三時まで、白雲閣にて写経(二巻千円)を行っております。
- ★納骨のご案内 午前九時三十分より午後四時まで年中無休で宗派は問わず納骨を受け付けています。尚、納骨の際は、事前にお問い合わせ下さい。
- 日程については、変更になる時もございます。
- お問い合わせ ☎06-6791-0026

融通念仏宗本山 大念仏寺

謹賀新年

管法	長主	倍巖	良舜
宗務総長	田中	瑞修	
教学部長	濱田	全真	
庶務部長	佐々木	智祥	
財務部長	篠塚	章臣	

話せば心も軽くなる 大阪仏教テレビホン相談室

仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を十宗派の僧侶がお受けします。

月曜日～金曜日 一月十一日～十二月二十四日(八月休)

でんわ 〇六(六二四五)五一一〇 午後二時～五時迄